

例題と演習で学ぶ 線形代数 初版第3刷 正誤表

ページ, 場所	誤	正
p. 24, 2次正方行列の余因子展開の2行目	$\dots + (-1)^{2+1}cd = \dots$	$\dots + (-1)^{2+1}bc = \dots$
p. 46, 定義 3.4 の直後に文章の追加		注意. 階段行列では, 成分の値が 1 になる成分の列の上側の成分の値をすべて 0 にすると, 階段行列が一意に定まる.
p. 89, 5.2.1	このとき, $\lambda^m$ に対する $A^m$ の固有ベクトルはどのようなになるか考えよ.	このとき, $\mathbf{x}$ が $\lambda^m$ に対する $A^m$ の固有ベクトルであることを示せ.
p. 112, 2行目	ベクトルの和やスカラー倍は	ベクトルの和や実数倍は
p. 112, 定義 A1.2 (1)	$\lambda \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix}$	$\lambda \mathbf{x}$
p. 112, 定義 A1.2 (1)	( $\lambda$ はスカラー)	( $\lambda$ は実数)
p. 112, 7行目	スカラー倍	実数倍
p. 112, 図 2	ベクトルのスカラー倍	ベクトルの実数倍
p. 114, 下から 2 行目	ベクトルの計算をせよ.	ベクトルの成分を計算せよ.
p. 116, 定理 A1.2	... のなす角を $\theta$ とした...	... のなす角を $\theta$ ( $0 \leq \theta \leq \pi$ ) とした...
p. 117, 定理 A1.3 (2)	$\langle \alpha \mathbf{x}, \mathbf{y} \rangle = \alpha \langle \mathbf{x}, \mathbf{y} \rangle$	$\langle \lambda \mathbf{x}, \mathbf{y} \rangle = \lambda \langle \mathbf{x}, \mathbf{y} \rangle$
p. 117, 定理 A1.3 (2)	( $\alpha$ はスカラー)	( $\lambda$ は実数)
p. 120, 例題 A1.5 解答の最後の行	$\dots + t \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \end{pmatrix}$	$\dots + \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \end{pmatrix}$
p. 128, 4行目	$\dots + \frac{1}{2} \begin{pmatrix} -\sqrt{3} \\ 1 \end{pmatrix}$	$\dots + \begin{pmatrix} -\sqrt{3} \\ 1 \end{pmatrix}$
p. 135, 下から 3 行目	この準備としてこの節では,...	この準備として本節では,...
p. 143, 下から 8 行目	$= \frac{4}{3}x + \frac{2}{3}y - \frac{7}{6}$	$= -\frac{1}{2}x + \frac{4}{3}y - \frac{5}{6}$
p. 185, 5.2.1	$\lambda^m$ に対する固有ベクトルも $\mathbf{x}$ である.	省略